

「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」紹介事業

我が国では、平均寿命が男性で80歳、女性で86歳となり、高齢期においても、地域や人とのつながりをもちながら充実した生活を送ることは、すべての人にとって重要な課題となっている。

このため、既に高齢期を迎え、又はこれから迎えようとする世代の高齢期における生き方の参考に供するため、自治体と連携して、エイジレス・ライフ(年齢にとらわれず自由に生き生きとした生活を送ること)を実践している者及び地域において社会参加活動を積極的に行っているグループ等の活動事例を収集し、広く紹介していく。

都道府県等による推薦

(平成27年度)

エイジレス・ライフ実践者 111 名
社会参加活動グループ 88 団体

(例)

- ・郷土文化の伝承活動
- ・防災対策の普及啓発
- ・緑化・美化活動、子育て支援活動・・・等

内閣府による選考

(平成27年度(案))

エイジレス・ライフ実践者 67 名
社会参加活動グループ 51 団体

選考基準

- ・活動内容が人々の共感と呼ぶこと
- ・地域への貢献が顕著なこと
- ・独創的な活動であること 等

選考委員会



< 委員 >

学識経験者 2名
自治体職員 1名
開催県(市)より
マスコミ 2名
その他(民間) 1名

< 委員長 >

瀬沼 克彰
(桜美林大学名誉教授)

広報・啓発

内閣府のホームページで事例を紹介

自治体ごとに表章

「老人の日」(9月15日)関連のイベントで表章 等

「老人の日」(9月15日)に合わせて記者発表

(ホームページ掲載、ローカル・メディアへの情報提供 等)

高齢社会フォーラム(地方開催)で一部の表章と活動内容を映像紹介



事例

平成27年度 社会参加活動事例(抜粋)

がっしょうざ

合唱座 福井県(福井市)

家庭内暴力や自殺行為がなくなるよう、実際の体験を取り入れた命の尊さを伝える自作の様々な仏法寸劇を披露している。劇で地域の子供から高齢者までを元気づけながら、つらいことを乗り越えて生きる大切さや人間としてどうあるべきか考える機会を提供している。また、演目に漫才を取り入れ、福井のよさを伝えるため特産や名所、食べ物などを取り入れたり、劇に児童の活動グループの合唱を取り入れて世代間交流に努めるなど精力的に活動している。

かわらめいじゅかい

河原明寿 京都府(京田辺市)

高齢者が若い親たちに積極的に地域の良さを伝え、世代間交流で地域力をアップさせている。特に毎年夏休みに行われているラジオ体操では老人会と子ども達や保護者が参加し、朝の挨拶を交わすことによって顔見知りになり、地域の安心・安全な町づくりにつながっている。クリスマス会や地域の清掃活動をはじめ、神社の祭り行事など、自分たちの住む地域をより良くしていこうとする地域みんなの思いが一つになっている。

しゅうぼうがくしゃ

周望学舎シルバーバンク 福岡県(北九州市)

周望学舎第一回修了者の有志の方々が、学舎で学んだことや自分が持っている知識、技能、労力を社会奉仕に活用することは出来ないかと誘い合って結成。「シルバーバンク」とは、自分に出来ること(知識や技能)を登録して、それを必要とする個人、団体にニーズにあった技術、能力、労力を提供していく仕組み。銀行の預金と払い出しの仕組みに似ていることからの命名。

事例

平成27年度 社会参加活動事例(抜粋)

かわげ 河芸子育てサロン 三重県(津市)

毎週火曜日・木曜日の午前中、河芸ほほえみセンター交流室を利用し子育て支援の活動を行っている。自らの子育ての経験を生かして、育児中の若いお母さんの孤立防止や情報の交換の場として、また祖父母と接する機会の少ない核家族との世代間交流などを通して、若いお母さんのストレス防止、孤立防止・虐待防止・安心して子育てができる環境や就園前の子ども達のふれあいの場や見守り等を提供し、子育て家族の憩いの場として親しまれており、地域に根ざした活動をされている。

さいか 雑賀地区認知症見守りの会「ほっとさいか」 島根県(松江市)

「認知症になってもだいじょうぶなまちづくり」をテーマに、住民が主体となって認知症についての研修会、未帰宅事案発生時の緊急連絡網づくりと模擬訓練、ケアマネジャーと地域住民の情報交換会など、意欲的に取り組んでいる。住民主体性の素地のもと、認知症の方や家族の問題について地域包括支援センターやケアマネジャー及び介護サービス事業所と近隣住民であるほっとさいかのメンバーが集まり、「地域ケア会議」も開催されている。

かみどのみらいかいぎ NPO法人上殿未来会議 (一財)日本郵政退職者連盟

平成21年12月、上殿小学校存続対策協議会を立ち上げ、上殿地域全戸の空き家調査、アンケート調査等を実施したが、定住対策の手続きや契約、家主との交渉は不可能とわかり「NPO法人 上殿未来会議(平成25年3月15日認可 初代理事長 矢立洋士)を設立した。子供連れの若者夫婦で移住者が望めば引っ越しも手伝い、就職の世話等も行っている。(活動開始から12世帯、50名が移住)

平成28年版高齢社会白書における事例紹介

「100歳まで働ける職場で多世代がつながる」 さいたま市「BABAラボ」

定年後、地域で自分の得意なことやこれまでの経験を活かし、なおかつ歩いて行ける距離で、お小遣い程度でも稼げる所があれば、という思いから作られた。

おじいちゃん・おばあちゃんが孫の面倒をみるときに使いやすい、使ってみたいと思わせるグッズを、地域の高齢者たちの経験と知恵を生かして開発している。

高齢者だけでなく、30～40代の子育て中のメンバーも多い。工房に子供や孫を連れてきても問題なく、作業を細分化し、あえて「非効率」にすることで、いろいろな年代の方が参加できるようにしている。

両親が遠くに住んでいる、核家族の若い夫婦が、自分の子供に「おばあちゃん」の温かさを経験させてあげたい、また、年を重ねても生き生きとしている姿を、これから年を重ねていく自分の希望にしたい、という思いから集まっている。



